

高校生活魅力化プロジェクト 3年間の歩み

はじめに

高校生活魅力化プロジェクトってなに？

厚真町の教育魅力化事業の一環として、2021年から「高校生活魅力化魅力化プロジェクト」がスタートしました。このプロジェクトが始まった当初、厚高生からは「家と学校との往復だけで厚真には何も思い出が無い」、そして町民の方からは「町内で厚高生の姿を見かけることが無い」という声ばかりでした。そこで私たちは「厚真で最高の高校生活を」をテーマを掲げ「公営塾よりみち学舎」、「地域」、そして「学校」を舞台に厚高生が魅力的な高校生活を送れるようにと伴走を行って来ました。その結果、これまでの厚真町では見ることができなかった厚高生の活躍する姿が見られるようになってきます。一部ではありますが、ぜひともその姿をご覧ください。

はじめに

- 1 公営塾よりみち学舎での記録
- 2 地域での記録
- 3 高校での記録
- 4 おわりに

1 公営塾よりみち学舎での記録

最高の寄り道体験を

これまでの厚高生にはなかった「居場所」として始まったよりみち学舎。



公営塾よりみち学舎での記録



学校祭でバンドデビュー

ここで、初めて楽器に触ることが多い厚高生。始めのうちはここにある楽器で練習していましたが、自分で楽器を買い家でも練習を。その後、学校祭でバンドデビューすることにもなりました。

友だちや先輩が学校祭で演奏している姿を見て、新たに楽器を始める厚高生が増えてきて、厚高ではバンド文化できつつあります。

食べたいものは作る

「厚真でも〇〇が食べられればなあ」なんて会話を厚高生はよくしています。しかし、何度も料理体験を重ねることで、「無いなら作る」という思考に変わってきました。「ドーナツを作りたい」と言っていた厚高生が、一般的なドーナツではなく、ポンデリング風のドーナツを作り始めた時は驚きました。



作るとわかる

料理だけではありません。これまで木のスプーン、木刀、アロマキャンドルなどたくさんのもので作ってきました。更には、Tシャツやトレーナーをタイダイ柄に染めることにも挑戦しました。色々なことに挑戦することで自分の好き・嫌い、得意・不得意が分かるようになってきました。

公営塾よりみち学舎での記録



教え合いが近道

普段は、スポーツや料理、雑談をしてもテスト前にはもちろん勉強もします。よりみち学舎では授業スタイルでの学習指導ではなく、スタッフが一緒に勉強をする個別スタイルで行っています。また、生徒同士が教え合いながら理解を深めている様子も見る事ができます。

交流は壁塗りから

よりみち学舎には、北海道内の大学生が来てくれることがあります。ただ、厚高生はシャイな子が多く、会話が弾まないこともあります。そこで、一緒に壁塗りの作業をしてもらいました。すると、作業の合間にぽつぽつと会話をするようになってきて、作業後には大学生に勉強を教えてもらっている厚高生もいました。



卒業生もよりもち

何も連絡なく、ふらっと寄り道してくれる卒業生。彼が言うには、そうやって来る方がよりみち学舎っぽいとのこと。大学生活の楽しい話ばかりではなく、将来の悩みについても話をしてくれます。厚高生が厚高を卒業した大学生と身近に交われる場所にもなってきました。



2 地域での記録

町とつながること

厚高生が自分たちで町を楽しめる場所に。その結果、町の人たちも楽しむ場所に。



地域での記録



町民との熱い試合

町民の方とソフトボールの試合をしました。厚高生チームがリードで迎えた最終回、なんと町民チームがさよならタイムリーヒットを打ちが逆転勝ち。厚高生たちは負けてしまい悔しがっていました。しかし、真剣に勝負ができた楽しさの方が勝っているようでした。



小学生との勝負

バレーボール好きが多い厚高生。ある日、練習待ちをしているバレーボール少年団の子たちに声をかけ、一緒に試合をすることになりました。高校生の威厳を見せるつもりが、小学生の上手さに驚かされることになりました。試合後、小学生から「ありがとうございました」に照れている厚高生の姿は新鮮でした。



オリジナルおにぎり

おにぎりプロジェクトの一環として、町内にある飲食店に協力してもらい、厚高生が考えたオリジナルおにぎりを作ってもらいました。そして自分たちで販売を。用意した40個のおにぎりはわずか30分で完売に。自分たちの考えたおにぎりを喜んで買ってくれる姿を目の当たりにした厚高生はとても嬉しそうでした。

地域での記録



無敗の厚高生

厚真町のお祭り「田舎祭り」で2年続けてゲームブースを出展しました。1年目から長蛇の列ができ、2年目には1年間楽しみにしていた子どもたちがたくさん来てくれました。そして、この2年間、対戦ゲームで一度も負けることのなかった厚高生がおり、その厚高生を倒すために必死になっている子どもたちの姿が忘れられません。

厚真でランチ

テスト期間中は午前授業で終わるため、厚高生たちは町中まで歩いて昼食を食べに行くようになりました。町内に住んでいる厚高生の口コミの力により、連日に渡って厚真の飲食店をはしごする厚高生も出てきました。今では、厚高生の口癖は「あつまのご飯コスパがいい」です。



あつまで科学館

科学館の無い厚真町で科学実験を体験するイベントを行いました。厚高生と共に、デジタルアート、スライム作り、巨大シャボン玉を用意しました。巨大シャボン玉作りに苦戦している子どもたちに、厚高生が見事な巨大シャボン玉を披露。こどもたちから何度も「もう一回」とせがまれ大忙しでしたが、まんざらでもない様子でした。

地域での記録



天地返し

シイタケ農家さんでもお手伝いを。ここでは、原木栽培が行われているため、積んである木の組み換えを行う「天地返し」をしてきました。形や大きさの違う重い木の幹をパズルのように組み替えるのには苦労しました。その分、お昼にだしていただいた農家さんのおにぎりは格別に美味しかったです。

さざんか

高校生震災ガイドとして活動を行っている「さざんか」。さざんかの活動はガイドだけではなく、他校への出前講座、防災キャンプ、防災運動会など多岐にわたっています。それは、防災について多くの方に知ってもらいたいという思いからです。彼らと一緒に、防災について考えてみませんか。



町作りは自分たちで

町民の方に行ったインタビューの内容を持ち寄り、中学生と一緒に町づくりについて話し合いを行いました。グループワークの始めは中高生お互いにぎくしゃくした雰囲気でした。しかし、発表時に厚高生の一人が町長になったつもりで発表をしてくれたことで、全体が楽しめる雰囲気になり、その後の話し合いがとても活発的になりました。



3 学校での記録

厚真とともに

農業・林業体験、総合的な探究の時間など、地域と共に学ぶ学校



学校での記録



あつま人かるた

町民の方にインタビューを行いその方の読み札（キャッチコピー）を作るあつま人かるた。1年生の総合的な探究の授業の一環として行われています。中には、「そんな一面も！」と思える読み札もあり、町民の方の新たな一面に気づかされることもあります。

総合的な探究の時間

あるグループでは、厚真町図書室の魅力や困りごとを知るために、利用者向けのアンケートを実施しました。その結果、厚高生のおすすめ本の紹介文を厚真町公式LINEにお伝えすることになりました。自分の好きな本の魅力を伝えることに苦労していましたが、自分の思いが詰まった紹介文ができあがりました。



出前探究

お隣のむかわ高校で行われている探究学習にお邪魔してきました。「むかわ町でゲーム大会をしたい」というグループがあり、その経験がある厚高生がノウハウを伝えるついでに、一緒にゲームもしてきました。探究学習を通じて他校との繋がりを持つことができるようになりました。



学校での記録



職場体験学習

上厚真、千歳、苫小牧へとこれまで行くことが無かった地域まで受け入れ先を広げることができました。その結果、より自分が将来就きたい仕事内容を選ぶことができるようになりました。更に、体験させていただいた事業所が就職先になった厚高生もあり、この職場体験学習が将来を決めるための重要な授業となってきています。

熱い体育大会

厚高では、屋外体育大会と屋内体育大会があります。どちらも盛り上がるのですが、屋内体育大会のバレーボールについては、厚高生たちの熱の入れようが違います。優勝チームには特典として、教員+公営塾スタッフチームとの試合がありますが、その試合では、生徒たちよりも大人たちの方が熱くなっていました。



強歩大会

町内約14kmを走る強歩大会。前日に防災無線を活用し、町民の方に応援の呼びかけをさせていただきました。その結果、町民の方が沿道からエールを送ってくださり町の一大イベントになりつつあります。走り終えた厚高生から「知らない人だけど応援されちゃった」と嬉しそうに話す声が聞こえてきました。

4 おわりに

これからも伴走を

手探り状態で始まり、現在も模索中の高校生活魅力化プロジェクト。しかし、「やりたいことがわからない」と言っていた厚高生たちから「次は〇〇がしたい」という声が聞こえるようになってきました。また、「もっとバレーボールがうまくなりたい」や「デッサンの仕方を教えてもらいたい」といった、学びに向かう姿勢も生まれてきています。少しずつですが、厚高生に変化が生まれ、そして成長につながってきています。これまでと同様に、これからも厚高生一人一人が「最高の高校生活」を送れるように伴走し続けていきます。

最後になりますが、この3年間を過ごした厚高生の声をご紹介します。

厚高生の声

総合的な探究の時間の授業で作ったポスターを役場にもっていったことが3年間で一番心に残っている。

人との関りや経験を通じて成長することができた。一人じゃできないことを、大人や仲間と一緒にいてくれたお陰で頑張れた。

田舎まつりでのゲームブースは、ルール作りなども自分たちでできたから良かった。

雑談が楽しかった。

アツマルシェでのおにぎり販売が楽しかった思い出。自分の作ったおにぎりをお店の前に立ち、手渡しで販売できたことが嬉しかった。

よりみち学舎を通じて、自分のやりたいことを見つけ、人生を決定づける出会いがあった。

ソフトボールやバレーボールの試合を町民と熱い試合ができて楽しかった。

スタッフが優しく話を聞いてくれるから話をしたくてよりみち学舎に通っていた。

よりみち学舎は家に帰る以外の居場所。学校と家とのはずま。

これまでは家でゲームすることしか楽しみが無かったけど、友だちも増えたり、友だちと喋ることが増えた。他学年との交流も増えた。

この3年間は、自分のやりたいことを自分の気が済むまでやることができた。

高校生活魅力化プロジェクト3年間のあゆみ (2022年度～2024年度版)

発行日：2025年3月

編・刊：厚真町公営塾よりみち学舎

〒059-1605 北海道勇払郡厚真町字本郷234-6

問合せ：厚真町教育委員会 社会教育グループ

TEL 0145-27-2495

note ー つくる、つながる、とどける。



厚真町では「よりみち」が公認！？ 町で厚高生たちが活躍するまでの3年を紹介!!



であいと、まなびと。厚真町教育委員会note

2025年2月27日 20:56

2021年、「教育魅力化事業」の一環としてスタートしたのが「高校生活魅力化プロジェクト」です。「厚真で最高の高校生活を」をテーマに、学校(厚真高校)、公営塾(よりみち学舎)、そして地域(厚真町)という三つのフィールドを活かしながら、生徒一人ひとりが主体的で充実した高校生活を送れるよう、支援を続けてきました。

今では、多くの厚真高校の生徒(以下、厚高生)が町の中でいきいきと活躍する姿が見られるようになりました。しかし、プロジェクトが始まった当初は、町の中に厚高生の姿はほとんど見られませんでした。

この3年間で、町はどのように変わり、高校生たちはどのように成長してきたのか。その変化の歩みを、ぜひご紹介させてください！

厚真町へ3年間毎日来ているのに、厚真町を知らずに卒業する高校生たち

厚真高校には、全校で約70名の生徒が在籍しており、その8割以上が苫小牧など町外から通う生徒たちです。苫小牧市の中心部から厚真高校までは、車で約40分、自転車だとおよそ2時間の距離にあります。

note ー つくる、つながる、とどける。

授業が終わると、生徒たちは学校前から出るバスに乗ってまっすぐ帰るのが当たり前の日常。プロジェクトが始まる前は、毎日厚真町を訪れていながら町のことをほとんど知らないまま3年間を過ごし、卒業していく生徒がほとんどでした。



「せっかく厚真町に通っているのだから、地域の人たちと交流する機会をつくり、学習面もサポートしながら、より充実した高校生活を送ってほしい」。そんな思いから始まったのが、「高校生活魅力化プロジェクト」です。

プロジェクトの中核を担う公営塾「よりみち学舎」

2021年の夏、「高校生活魅力化プロジェクト」が本格的に始動しました。

その年の年末には、公営塾「よりみち学舎」が仮オープン。

note ー つくる、つながる、とどける。

そして翌年の2022年1月から、地域おこし協力隊のメンバーによる運営のもと、プロジェクトの中核を担う公営塾「よりみち学舎」が正式にスタートしました。



厚真高校の向かいにある厚真町スポーツセンターの一室が、「よりみち学舎」の活動拠点です。

「よりみち学舎」の部屋には、ギターやボードゲーム、野球道具が置かれ、本やフィギュアが並ぶ棚、絵や文字が描かれた壁にはポラロイド写真も貼られています。まるで「文化系部活動の部室」ような、楽しさと居心地の良さがたよう空間となっています。



note ー つくる、つながる、とどける。

もちろん、公営塾という顔も持っているため、奥には個別学習ができるスペースもしっかり用意されています。過去に「よりみち学舎」へ訪問した動画もYouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください。

自分の「したい」を大切にできる第三の場所

「よりみち学舎」には、毎日10～20人の高校生がやって来て、それぞれ好きな時間を過ごしています。

文化祭でバンドをやりたいからギターを教えてほしいという子、卓球に興じる子、外で体を動かしたい子、テスト前に勉強を教えてほしいと言ってくる子、絵が描きたい子、その過ごし方は本当にさまざまです。



ここで初めて楽器に触れる厚高生も多く、最初は「よりみち学舎」の楽器で練習していました。が、次第に自分で楽器を買って家でも練習するように。やがて学校祭でバンドデビューを果たす生徒も現れました。

その姿に刺激を受けて、新たに楽器を始める生徒も増え、厚高には少しずつバンド文化が根つき始めています。

普段はスポーツや料理、雑談を楽しんでいますが、テスト前にはしっかり勉強もします。よりみち学舎では授業形式ではなく、スタッフが生徒と一緒に学ぶ個別スタイルを採用。生徒同士が教え合いながら理解を深めている様子も見られます。

note つくる、つながる、とどける。



「よりみち学舎」のコンセプトは、「いつでも、誰でも来ていいよ」。基本は厚真高校の子たちの居場所ですが、町民との交流も「よりみち学舎」での活動を通じて行われています。子どもたちと一緒に厚真町で開催される田舎祭りにゲームブースを出店したり、高校生と町の大人たちで本気のソフトボール会を開催したりと、さまざまな交流の機会をつくっています。



また、科学館のない厚真町で「科学の楽しさ」を届けようと、「よりみち学舎」と厚高生と一緒に科学実験イベントも開催。デジタルアートやスライム作り、巨大シャボン玉などを用意しました。なかでも巨大シャボン玉は子どもたちに大人気で、うまくできずに困っていたところ、厚高生が見事なシャボン玉を披露。子どもたちから「もう一回！」と何度もせがまれ、大忙しになりながらも、どこか嬉しそうな表情を浮かべていました。

note ー つくる、つながる、とどける。



「よりみち」から生まれた新しい取り組み

「よりみち」を楽しむ厚高生と「よりみち学舎」が力を合わせて取り組んできた、さまざまなプロジェクトの一部を、最後にご紹介させていただきます。

・厚真人カルタ

2023年から、厚真高校と「よりみち学舎」が協働で職場体験学習を実施しています。仕事の体験だけでなく、「人」や「生き方」に焦点を当てて事業所の方(町民)へインタビューを行い、グループごとにキャッチコピーを考案。町民の個性がにじむオリジナルの読み札を作成し、カルタを完成させました。

この取り組みを通して、生徒たちに自分自身の生き方を主体的に考えるきっかけをつくりました。



note ー つくる、つながる、とどける。

・おにぎりプロジェクト

「おにぎりアクション」は、SNSにおにぎりの写真を投稿すると、1枚につき給食5枚につき給食5食分がアフリカやアジアの子どもたちに届く仕組みで、特定営利活動法人「TABLE FOR TWO International」が実施している取り組みです。

「よりみち学舎」と活動に賛同した厚高生と一緒に参加し、町内外に協力を呼びかけたり、PR用のおにぎりを11月3日に町内で限定販売しました。用意した40個のおにぎりは、わずか30分で完売するほどの反響がありました。



「最高の寄り道」が創る、子どもたちの未来への道

「最高の寄り道体験」をテーマに運営されてきた「よりみち学舎」。

何気ない「よりみち」が、子どもたちの主体性を育み、未来へと続く道をひらいています。

公営塾よりみち学舎での記録



学校祭でバンドデビュー

ここで、初めて楽器に触ることが多い厚高生。始めのうちはここにある楽器で練習していましたが、自分で楽器を買い家でも練習を。その後、学校祭でバンドデビューすることにもなりました。

友だちや先輩が学校祭で演奏している姿を見て、新たに楽器を始める厚高生が増えてきて、厚高ではバンド文化できつつあります。

食べたいものは作る

「厚真でも〇〇が食べられればなあ」なんて会話を厚高生はよくしています。しかし、何度も料理体験を重ねることで、「無いなら作る」という思考に変わってきました。「ドーナツを作りたい」と言っていた厚高生が、一般的なドーナツではなく、ポンデリング風のドーナツを作り始めた時は驚きました。



作るとわかる

料理だけではなくありません。これまで木のスプーン、木刀、アロマキャンドルなどたくさんものを作ってきました。更には、Tシャツやトレーナーをタイダイ柄に染めることにも挑戦しました。色々なことに挑戦することで自分の好き・嫌い、得意・不得意が分かるようになってきました。

地域での記録



無敗の厚高生

厚真町のお祭り「田舎祭り」で2年続けてゲームブースを出展しました。1年目から長蛇の列ができ、2年目には1年間楽しみにしていた子どもたちがたくさん来てくれました。そして、この2年間、対戦ゲームで一度も負けることのなかった厚高生があり、その厚高生を倒すために必死になっている子どもたちの姿が忘れられません。

厚真でランチ

テスト期間中は午前授業で終わるため、厚高生たちは町中まで歩いて昼食を食べに行くようになりました。町内に住んでいる厚高生の口コミの力により、連日に渡って厚真の飲食店をはしごする厚高生も出てきました。今では、厚高生の口癖は「あつまのご飯コスバがおいしい」です。



あつまで科学館

科学館の無い厚真町で科学実験を体験するイベントを行いました。厚高生と共に、デジタルアート、スライム作り、巨大シャボン玉を用意しました。巨大シャボン玉作りに苦戦している子どもたちに、厚高生が見事な巨大シャボン玉を披露。こどもたちから何度も「もう一回」とせがまれ大忙しでしたが、まんざらでもない様子でした。

学校での記録



職場体験学習

上厚真、千歳、苫小牧へとこれまで行くことが無かった地域まで受け入れ先を広げることができました。その結果、より自分が将来就きたい仕事内容を選ぶことができるようになりました。更に、体験させていただいた事業所が就職先になった厚高生もあり、この職場体験学習が将来を決めるための重要な授業となってきています。

暑い体育大会

厚高では、屋外体育大会と屋内体育大会があります。どちらも盛り上がるのですが、屋内体育大会のバレーボールについては、厚高生たちの熱の入れようが違います。優勝チームには特典として、教員+公営塾スタッフチームとの試合がありますが、その試合では、生徒たちよりも大人たちの方が熱くなっていました。



強歩大会

町内約14kmを走る強歩大会。前日に防災無線を活用し、町民の方に応援の呼びかけをさせていただきました。その結果、町民の方が沿道からエールを送ってください町的一大イベントになりつつあります。走り終えた厚高生から「知らない人だけど応援されちゃった」と嬉しそうに話す声が聞こえてきました。



2025年から新たに2名を迎え、「伴走」をテーマに、学校(厚真高校)、公営塾(よりみち学舎)、そして地域(厚真町)の三者が連携し、生徒一人ひとりに寄り添い、伴走してまいります。

取り組みの様子は「note」で紹介していく予定です。

ぜひ、乞うご期待ください！